

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671600124		
法人名	社会福祉法人 よつ葉会		
事業所名	グループホームはな		
所在地	徳島県阿波市市場町香美字秋葉本80番地1		
自己評価作成日	平成29年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年3月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設事業所と自由に交流を行っている。事業所の玄関前のベンチでは、近隣の方々との交流の場となっている。玄関先には、散歩や外気浴を楽しむことのできる広場がある。また、広場の一角には菜園があり、利用者と職員がともに季節に応じた野菜や花づくりのための苗植え・種まき・水やり・草取り・収穫などを楽しんでいる。菜園横には藤棚があり、ベンチを置き、木陰での涼みや休憩のスペースを作っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、静かな環境の中に位置している。周辺には、同一法人の運営するデイサービスセンターやケアハウス、防災型地域交流スペースなどがあり、地域の福祉拠点としての役割を担っている。敷地内の広場には、桜や藤棚などがあり、そのベンチで利用者や職員が近隣の方との会話を楽しんだり、テラスでお茶を飲んだりしている。リビングダイニングにはつねに利用者が集い、若い頃流行した歌をともに歌ったり、思い出話をしたりしている。同一法人の運営する医療機関の協力を得て、利用者の急変時にも24時間の対応が可能な状況を整備し、本人や家族の安心に繋がっている。管理者や職員は、理念をケアの原点と捉え、実践へと繋げることができるようミーティングや研修、勉強会を通じて共有化を図り、利用者が安心して居心地良く、楽しく過ごすことができるよう取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、全職員が共有しており、常に業務の中で意識し、実践に取り組んでいます。又、入居者様・家族様・来客の方にも理念をわかって頂けるよう取り組んでいます。	法人として地域とのかかわりを重視した理念を掲げており、事業所では、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。職員間で、理念について話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	協力施設や併設施設のご利用者の方々、近隣の中学生や、舞踊や歌謡のボランティアの方々、ご近所の方々と、様々な行事(敬老会・運動会・お誕生会、防災訓練など)を通して、地域との交流に取り組んでいます。	事業所として地域の方の来訪を快く受け入れており、利用者と職員、地域の住民でベンチに座って会話を楽しんだり、テラスでお茶を飲んだりしている。また、地域の学生の体験学習を受け入れており、認知症の正しい理解を促すよう話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、認知症に関する情報誌やパンフレット、認知症のケア・マニュアルの基本など、誰もが見たり持ち帰ることができるよう設置したり、関わりや啓発に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、事業者の取り組みや目標達成計画や実施状況・評価や、認知症ケアに関する話し合いをする中で、市町村、委員メンバー、施設の意見交換ができ、サービス向上に活かすよう取り組んでいます。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の活動状況に関する報告を行ったり、出席者から地域の情報を得たりしているが、地域の老人会や婦人会、警察、消防、認知症サポーター、ボランティアなどの出席を得るまでには至っていない。	運営推進会議は、事業所からの報告にとどまらず、具体的な課題や事例、対応策等について話し合う機会とされたい。事業所と出席者が双方向に意見を出すなどして、地域との連携を図りつつ、事業所がさらに地域福祉の拠点となるよう職員間で検討されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険(地域密着型)担当の方々、各種届出・評価結果や情報公開などの提出や、相談など、お伺いする機会をもちサービスの向上に取り組んでいます。	管理者が中心となって市担当窓口へ出向いており、各種申請や実績報告、取り組みなどを伝えている。また、事業計画書を届けるなどして協力関係を整えている。危機管理課などにも出向いており、災害時の対応について助言を得ることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会や日々のミーティングや施設内研修などで、心身の拘束について話し合い、再確認し、拘束をしないケアに取り組んでいます。	月1回、事業所では、“はな会議”を開催しており、その際に身体拘束の内容や弊害等の理解を深めるようしている。全職員で身体拘束をしないケアに努めている。家族にも身体拘束の弊害について伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて、全職員に理解していただけよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、参考資料の回覧に努めている。現在、利用されている方はいないが、必要に応じた支援ができるよう心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申込時に、十分説明を行い、家人やご利用者の要望、医療面やリスク、看取り、利用料、生活内容、医師や看護師・医療連携や対応方針など詳しく説明し、同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や家族会、アンケートの実施で要望や、ご意見を伺ったり、意見箱を設置している。気軽に話して頂けるよう配慮し、出された要望にお応えできるよう、職員間で話し合っています。	年1回、事業所で家族へのアンケートを行い、意向や希望を聞いている。家族会の機会にも、利用者と家族から話を聞くようにしている。来訪の困難な家族には、利用者の生活の様子を伝えるなどして意向を聞いている。出された意向等は職員間で速やかに検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個別面談の実施や月1回のはな会議に参加し、悩みや意見、提案などを聞き、サービスの質の向上に努めています。	管理者は、日頃のケアの中で職員の率直な意見や提案に耳を傾けている。年2回、個別面談の機会も設けている。職員は、年度ごとに行動計画書を作成し振り返っている。出された提案等は、職員が意欲をもって働き続けることができるような職場づくりやサービスの向上に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に合わせた勤務や勤務体制を組み、柔軟な対応をしている。職員の表情や態度など素早く察知し対応することで、職員との信頼関係を築けるよう取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	事例検討にて施設内研修を行っています。また、外部研修を受講できるよう配慮したり、研修後は研修報告や資料を回覧しスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じ、他の事業所との交流を図ることができ、意見交換することで、サービスの質の向上につながっています。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム はな		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が、不安や悩みを打ち明けやすい雰囲気作りをしています。本人様の意向を尊重し、より良いサービスのあり方を探り、安心して頂けるよう努めています。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆったりとした雰囲気の中で、ご利用前の生活状況や、困っていた事を把握していく。要望に耳を傾け、話し合いの中で信頼関係を築いています。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心理・行動症状や中核症状、本人様や家族の方の意向を聞いたうえで、必要なサービスの情報を説明しながら、通所や短期利用についても話し合い、より良いサービスができるよう努めています。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を敬い、一人ひとりの人生史を職員は共有して、主役体験を活かせる場面作りをし、教えて頂く場面を多く持つことで、寄り添った関係を築いています。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族に、利用者様の様子をきめ細かく伝えたり、相談したりすることで協力も得られています。共に支えていく関係を築くことができるよう、取り組んでいます。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容室や店、住まわっていた場所への見当確認や併設施設の知人との交流、手紙交換、電話など、馴染みの関係が途切れない支援に努めています。	事業所では、家族や友人の来訪時には、居室でお茶を飲んでもらったりして気兼ねなく過ごすことができるよう支援している。また、電話で話しをし、馴染みの関係を継続することができるようにしている。家族の協力を得るなどして、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努め、地域交流や外出を支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶はできるだけ一緒に召し上がって頂いたり、朝のラジオ体操・交流レク・外気浴を楽しんだり、話題を盛り上げ語らいの輪に入って頂くなどの支援に努めています。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、通所・短期利用・再入居等、サービスの継続性が保たれるような支援体制に、努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の関わりの中で、本人様の思いを表情や言葉から察知したり、職員間での情報交換や、ご家族からの情報をもとに、話し合いながら方向性を確認しています。	職員は日頃の利用者との関わりの中で、一人ひとりの言葉や表情に着目し、意向や希望の把握に努めている。意志の表出の困難な方には、日々の表情や言動から意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に自宅訪問し生活環境を確認したり、家族との暮らしぶりやサービス利用時の状況、生活歴、嗜好などを聞き取り把握し、できるだけ馴染んだ環境に近づけるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で一人ひとりの心身状態を日々観察・実践してみることで、出来ること、出来るようなことを職員間で情報共有し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア・マネージャーを中心に、カンファレンスを開き、本人様の意向、家族様の要望、日々の困難事項、安全かつ快適に生活が送れるよう、それぞれの意見やアイデアを取り入れ、無理のない個別支援計画を作成しています。	事業所では、利用者がよりよく生活していくためのケアのあり方や課題等について関係者間で話し合い、介護計画書を作成している。生活リハビリやボランティアの来訪による書道や絵手紙など、生きがい活動も取り入れており、本人がより良く暮らしていくための取り組みに繋げている。利用者の心身状況の変化に応じて計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活状況日誌として、バイタル・食事・水分量・排泄・その日の心身状況や暮らしぶりなどを記入し、全職員が回覧確認することで情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスや空床利用時の短期利用サービスや併設施設での行事や余暇的活動での交流など、利用者様のニーズに合わせて、柔軟な対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム はな	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心・安全な暮らしが送れるよう、地域生活の継続性を心掛けています。自衛消防隊との連携や近隣のお店での買い物、小学生・中学生との交流ができるよう取り組んでいます。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族様が希望するかかりつけ医での受診をされています。健康管理及び緊急時の対応(入院・他科受診、通院)は家族様の希望や同意を得ながら、本人様や家族様が納得した受診体制となっています。	事業所では、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。週2回の往診や訪問歯科診療の機会もある。受診後、家族と情報共有を図り、緊急時には協力医療機関の協力を得ることのできる体制も整備している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の看護師や併設施設と兼務の看護師を配置し、日頃の観察により状態変化を素早く察知し、報告・相談し、医師や医療機関との連携が密にとられる体制が確保されています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化や病状による心身の変化にともなうストレスなどによる、ダメージを防ぐために、生活状況や支援方法の情報提供や医療機関との情報の共有、家族様との相談・話し合いをするなどの、関係づくりを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた指針を家族様に説明し同意を得ていますが、利用者様の状態変化の際には、再度、医師・看護師・本人・家族・との話し合いをし、方針を共有して支援に取り組んでいます。	契約の段階で、重度化や終末期の方針や対応方法を本人や家族に伝えている。利用者の方心状況の変化に応じて、利用者や家族、かかりつけ医と話をしている。職員や関係者間で方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応を実践研修したり、ミーティングの際には看護師の参加で資料回覧や確認をし、適切に落ち着いて対応ができるよう周知し、身につける取り組みをしています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者様とともに避難訓練を実施し、6月には消防署立会いで近隣の方々も参加し、避難・誘導・消火器の使い方などの訓練をしています。市が主催の、合同防災訓練にも参加し、地域との連携に取り組んでいます。	年2回、事業所では、利用者や近隣住民の参加を得て避難訓練を行っている。消防署の助言や指導をうけて、消火訓練なども行っている。災害時に備え、食料等を備蓄している。市危機管理課と話し合い、地域の防災拠点として協力できるよう体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内研修を通し話し合い、利用者様の誇りや生活習慣、プライバシーを損なわない対応の仕方、秘密保持の責務を再確認し、徹底しています。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮したケアに努めている。また、事業所内・外の研修会や勉強会に参加するなどして、つねに振り返りや確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の関わりの中で、押し付けることなく自己決定できるよう取り組んでいます。選択肢形式で、言葉や表情から本人様の希望や決定の意思を確認しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様が、今何がしたいのか確認し、行動や言動で察知し、声掛けやアドバイス、見守りのもとで一人ひとりのペースでの生活を確保している。押し付けにならないよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類や個性を大事にした服装や、鏡を見ることで髪をといたり、時には化粧を勧めおしゃれ心が表出するような支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の栄養士や調理師が食事は作っており、栄養管理できた食事となっています。毎朝、皆さんとメニューを確認し、「これ好きなんよ」とか、「何が入るとで」とか昔の記憶への働きかけとなり話が広がり、楽しみに繋がっています。	利用者と職員でおやつ作りなどを楽しんでいる。また、弁当を用意して外出することもある。職員は、利用者一人ひとりの関心や力量に応じて力を発揮することができるよう支援している。年2回、外出に出かけるなどして、利用者が食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や、心身の状態により、提供の仕方に工夫をしています。食事摂取量や、水分摂取量を表に記入し、把握しています。水分はこまめに摂って頂き、好みのもので代用するなど、一人ひとりに対応し、水分摂取量の確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の状態確認を兼ね口腔ケアを実施しています。歯科衛生士の資格を持った職員の指導や助言、相談をしながら、口腔の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム はな		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っています。排泄チェックシートを活用し、失敗しないために早め早めの誘導をしたり、座ることで排泄を促したり、その方にあったトイレでの排泄支援を心掛けています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている。トイレ介助の際には、さりげない声かけに留意している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸を刺激する運動を朝の日課の体操に組み入れたり、腹部マッサージや散歩を取り入れて便秘予防をしています。必要に応じ、個々に応じた服薬の調整、水分補給や食事での、排泄のコントロールも心掛けています。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ利用者様の希望に応じた入浴体制を心掛けています。回数、時間帯日によって変化し、柔軟な対応にてゆったりと入浴できるよう支援しています。	事業所では、利用者の希望に応じた入浴支援に努めている。職員は、利用者の羞恥心や不安感にも配慮し、介助時の言葉かけなどを工夫している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢化や少しずつ重度化していく中で、本人様の意思に添った休息や個々にあった、日中の過ごし方(散歩・外気浴・レクへの参加など)の工夫、不穏の方には寄り添い、安心して頂くことなどによって、夜間の安眠に繋げている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提供医療機関との連携にて看護師・全ての職員が、個々の処方された薬の用途・容量・目的など、把握し理解したうえで管理し、服薬時には、手渡しし飲み込むまでの確認をしています。症状の変化や、処方の変更時にも連携を図っています。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様や家族様からの情報をもとに、一人ひとりの楽しみごとの把握をし、職員同士が共有することで、その方らしい楽しみ方や役割を支援し、やる気に繋げています。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足や散策ルートを選択肢にし、行きたい場所に出掛けています。買い物や散歩や外気浴や野菜畑(花畑)の手入れがしたい時には、時間を作り対応しています。また、家族の方に協力をして頂き、外出支援しています。	利用者と職員で、事業所の菜園の手入れや散歩などを日常的に行っている。職員は、利用者一人ひとりの希望に応じて、個別に買い物等へ出かけている。歩行困難な方も車いすを利用するなどして、敷地内の藤棚の木陰やテラスでの日光浴を行い、戸外で気持ち良く過ごすことができるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自分で管理できず、家族よりお金を預かり、財布に入れ金庫で管理しています。買い物時には、欲しい物をカゴに入れ、自分で支払い支援を行っています。外食の際にも、好きなものを食べて頂き、支払い支援行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方に電話をかけた時、かかってきた時にはお繋ぎしたり、手紙が書ける方にはやり取りできるよう支援しています。安心感に繋がっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物、壁面の環境により季節感に配慮しています。音や明かり動線の安全面にも配慮しながら、和やかな雰囲気、居心地の良い空間づくりをしています。	共有空間は、生活の流れや一人ひとりの居場所が分かりやすい機能的な造りとなっている。季節の花々や絵手紙、書道など利用者の作品を飾っている。利用者や職員で歌を歌ったり、会話を楽しんだりして、自然と集う居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数か所にソファを置き、好みや馴染みの物を置き、独りを好む方へのスペースや仲の良い方達で談話を楽しめるスペースがあり、それぞれの方の居場所の確保ができています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使い慣れた家具やテーブルや布団などを持参して頂いたり、花や馴染みのある置物や写真や自分の作品の掲示などにより、その方々らしい落ち着いた居室空間となるよう工夫しています。	事業所では、居室に利用者の愛着のある衣装ケースや椅子、小物などを持ち込んでもらっており、その人らしい居室となるよう支援している。塗り絵や絵手紙などの生きがい活動の作品や家族の写真や部屋に飾っている方もいる。家族や知人、友人の来訪時には、居室で会話を楽しんでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や居室内の衣装ケース位置、適した灯りなどの配慮などにより、安全な自立生活を送って頂けるよう、工夫しています。見当識に不安がある方へは、見やすい表示をし、混乱や転倒を防ぐ環境づくりに努めています。		